

# 2025年度 保育園ぐらんでいーる 園評価

評価者 園長 杉靖子

評価の目安 A:80%以上できている B:50%以上できている C:50%以下しかできていない

## 1. 保育理念

| 評価の観点                      | 評価 | 評価の根拠  |
|----------------------------|----|--|
| 保育士一人ひとりが、保育理念、保育方針を理解している | A  | 保育士に対しては、入職時や面談時だけでなく、日頃から園の保育理念や保育方針、保育に対する基本的な考え方を伝えている。また、職員会議においてもそれらをテーマに話し合う機会を設け、職員間で共通理解を深めながら保育の実践につなげている。保護者に対しては、園見学や入園前説明会において保育理念・保育方針・めざす子ども像を丁寧に説明し、園の考え方を理解した上で入園を検討していただいている。さらに、保護者会や個人面談などの機会を通して、日々の保育と理念とのつながりを伝え、家庭との共通理解を図りながら子どもの成長を支えている。 |
| 保育目標や方針を保護者に知らせている         | A  |  |

## 2. 子どもの最善の利益

| 評価の観点                     | 評価 | 評価の根拠   |
|---------------------------|----|---|
| 人権に配慮し、お互いを認め合う心を育てている    | A  | それぞれの違いを認め、一人ひとりのその子らしさを大切にしている。また、自分の良さを発揮できる場を設けるとともに、自分とは違う友達の良さにも気付けるような関わりを心掛けている。子どもが「自分は大切にされている」と感じられ、自分の思いや考えを安心して伝えられる雰囲気づくりに努めている。さらに、園生活の中で行う活動や役割については、性別や年齢にとらわれず、子ども自身が主体的に選択できるように配慮している。 |
| 一人ひとりの子どものありのままの姿を受け入れている | A  |   |

## 3. 保育計画

| 評価の観点                              | 評価 | 評価の根拠   |
|------------------------------------|----|---|
| 長期、短期の保育計画を作成し見通しを持った保育を実施している。    | A  | 保育所保育指針に基づき、全体的な計画をはじめ、年間指導計画、月案、週案を作成し、計画性のある保育の実践に取り組んでいる。また、毎月末には各クラスで計画の振り返りを行い、子どもの姿や保育内容を共有しながら次月の計画へ反映させるとともに、行事終了後には実施内容や課題について話し合い、保育の改善につなげている。 |
| 保育計画、年間行事が適切であったか振り返りを行い、改善に努めている。 | A  | さらに、パート保育士にも日誌の記入を依頼することで、一人ひとりが計画を意識しながら保育に携わる体制を整えている。その結果、保育者自身が子どもの姿や援助を振り返り、主体的に意見や計画案を出す姿勢が見られるようになり、職員全体の保育に対する意識向上と資質の向上につながっている。                 |

## 4. 保育内容

| 評価の観点   | 評価 | 評価の根拠   |
|---|----|---|
| 一人ひとりの子どもが、生活や遊びを通して主体的に活動できるよう援助している                   | B  | 「やってみたい」「もっとやりたい」という一人ひとりの思いを、集団活動の中でどのように実現していくか、また子ども自身が主体的に活動を選択できる環境づくりについて、多くの保育士が難しさを感じている。一方で、個々の子どもの良さや得意なことをさらに伸ばせるよう、一人ひとりが輝ける場面を意識的に設けている。また、友達から良い刺激を受けながら、一緒に楽しんだり苦手なことにも挑戦したりできるよう、集団で育ち合う良さを生かした保育を実践している。結果だけでなく過程を大切に、お互いを認め合い、助け合う心を育む保育に取り組んでいる。 |
| 一人一人の子どもが、持っている力を思う存分発揮できる環境を整え、達成感、満足感を得られるような保育を行っている | B  |   |
| 一人一人の発達や個性に応じた保育、援助を行っている                               | A  |   |
| 遊びや生活を通して、共に育つことができる保育を行っている                            | A  |   |

## 5. 支援が必要な子どもの保育

| 評価の観点                            | 評価 | 評価の根拠   |
|----------------------------------|----|---|
| 家庭や関係機関と連携した支援を行うために個別の計画を作成している | A  | 家庭や関係機関との連携を密に図り、一人一人の発達状況に応じた個別支援計画を作成・実施している。また、クラスの中でどのような支援を行えば共に活動できるかを検討し、友達との関わりを大切にしながら生活できるよう援助している。一人ひとりがクラスの一員として安心して過ごし、共に育ち合える環境づくりに努めている。 |
| 仲間と共に育つことができるよう援助している            | A  |   |

## 6. 保護者支援

| 評価の観点                          | 評価 | 評価の根拠  |
|--------------------------------|----|--|
| 保護者の意見や要望への対応ができています           | A  | 懇談会やアンケートを通して保護者からの意見や要望を把握し、必要に応じて丁寧に対応している。また、送迎時や連絡帳を活用して、園でできるようになったことや頑張っている姿を伝え、保護者と成長の喜びを共有するとともに、家庭での様子や保護者の思いの把握に努めている。特に子育てに不安を抱える家庭については、送迎時の声掛けや個別面談などを通して継続的に相談に応じ、安心して子育てができるよう支援している。 |
| 子どもの成長を共に喜び合えるような関係作り、援助を行っている | A  |  |

## 7. 地域の子育て支援・地域との連携

| 評価の観点                              | 評価 | 評価の根拠  |
|------------------------------------|----|--|
| 地域に根ざし、地域に愛されるために、良好な関係を築けるようにしている | A  | 散歩時には地域の方へ積極的に挨拶を行い、自治会の清掃活動や会議にも参加することで、日頃から顔の見える関係づくりに努めている。また、地域の方に園の清掃員として勤務していただくなど、地域とのつながりを大切にしている。さらに、園庭開放や子育て広場を開催し、地域の子育て家庭同士が交流できる場を提供するとともに、子育てに関する相談にも応じ、地域に開かれた保育園としての役割を果たしている。 |
| 地域の子育て支援、地域の子育て家庭との交流をしている         | A  |  |

## 8. 安全管理

| 評価の観点                         | 評価 | 評価の根拠  |
|-------------------------------|----|--|
| 生活にふさわしい場として、安全で衛生的な環境を用意している | A  | 感染症対策については、日頃から消毒の徹底や衛生管理に努め、感染拡大を防ぐための環境づくりを行った。また、子ども一人ひとりの体調をこまめに観察し、体調不良の兆候が見られた際には早期対応を心掛けることで、感染拡大防止に努めた。              |
| 感染症発生時の対応を適切に行っている            | A  | さらに、さまざまな状況を想定した対応マニュアルを整備し、職員間で共通理解を図るとともに、園児・職員を対象とした訓練を実施し、緊急時に迅速かつ適切な対応ができる体制づくりを進めている。                                  |
| 災害対策、不審者対策を行っている              | A  | 防犯対策としては、玄関をオートロック化したほか、駐車場から園庭へ入る門扉をパスワード付きの門扉へ変更し、さらに園庭や駐車場の状況を確認できる位置に防犯カメラを設置するなど、園全体のセキュリティ強化を図り、安全・安心な保育環境の整備に取り組んでいる。 |

## 9. 個人情報保護

| 評価の観点                           | 評価 | 評価の根拠  |
|---------------------------------|----|--|
| 個人情報の取扱いについて説明している              | A  | 入園時の重要事項説明において、保護者へ個人情報の取扱いや守秘義務に関する内容を説明し、確認を得ている。また、職員については入職時に守秘義務等について説明を行い、誓約書を提出してもらうとともに、定期的に守秘義務に関する確認を実施し、意識の維持・徹底に努めている。 |
| 業務上知り得た情報に関する守秘義務について全職員に周知している | A  |  |

## 10. 職員の資質向上

| 評価の観点                                      | 評価 | 評価の根拠  |
|--|----|--|
| 人間性を豊かにするために、様々なことに主体的に関り、向上しようという意識をもっている | A  | 有給休暇を希望する時期に取得しやすい環境を整え、プライベートを充実させることで、さまざまなことに興味や関心を持ち、それが仕事への活力につながるよう取り組んでいる。園内では保育関連書籍の貸し出しを開始したことで、本を借りて学ぶ職員や、自ら研修を探して参加する職員も見られるようになった。しかし、自発的に学びを深める職員はまだ一部に限られている。子育て世代の保育士が多く、平日夜間や休日開催の研修への参加が難しい現状もあるため、今後はオンデマンド配信の研修を積極的に活用し、園内で無理なく学べる機会を確保していく必要がある。 |
| 研修に参加したり、専門書を読むなどして、保育に関わる知識や技能の向上に努めている   | B  |  |

### 【今後の課題】

年間を通して行事の準備や実施に追われる場面が多く、保育者に精神的・時間的な余裕がなくなり、日々の保育とのバランスが課題となった。そのため、一つひとつの行事について「何をねらいとして実施するのか」「子どものどのような育ちにつながるのか」という視点から見直しを行った。検討の結果、お楽しみが目的化している行事や、日常の保育の中でも十分に経験できる内容については、実施方法や必要性を再検討する必要があることが分かった。今後は、子どもの主体的な育ちを第一に考え、行事の精選と内容の充実を図り、保育者にもゆとりを持って日々の保育に取り組める環境づくりを進めていく。

日々の保育内容を見直す中で、これまで全学年で実施していた調理保育について、安全面や発達段階を踏まえ、以上児のみでの実施を検討した。また、乳児クラスを含めた全園児が食への興味や関心を深められるよう、旬の食べ物の観察や触れる体験、においや色、形を楽しむ活動など、年齢に応じた食育の充実を図る方向で検討を進めた。今後は、子どもたちの発達や興味・関心を踏まえながら活動内容を継続的に見直し、食を身近に感じられる多様な食育活動を取り入れ、より充実した保育につなげていきたい。

地域との交流については、十分な機会を設けることができず、今後の課題となっている。一方で、早朝に地域の方が園の清掃活動を行ってくださっており、早朝保育を利用する子どもたちは自然な形であいさつや会話などの関わりを持つことができている。今後は、このような日常的なつながりを大切にしながら、地域の方々との交流の機会を増やし、子どもたちが地域社会との関わりを深められるよう取り組んでいきたい。